



## 八王子の3組合が手を携えて 継続的な活動で地域貢献

### 八王子3組合（八王子組合・高尾組合・南大沢組合） （東京都遊技業協同組合） 「八王子3組合合同『青少年育成支援』」事業



高尾遊技場組合  
組合長  
小澤国生さん

八王子遊技場組合  
組合長  
宮本勲さん

南大沢遊技場組合  
組合長  
阿部恭久さん

#### 選考理由

障がい者支援事業として、24年前から身体障がい者を招待しての「ふれ愛ボウリング大会」を開催。昨年は5施設より150名を招待して楽しんでもらった。施設の人たちから毎年心待ちにされているこの事業は、永年継続により地域の認知度も高い。また、社会福祉協議会を通じて毎年寄付を続けて7回目の昨年は、経済的な問題を抱える児童の学力向上のための「無料塾」を支援、児童の居場所づくりにも貢献した。青少年育成と地域貢献を目的とする、地味ではあるが価値ある活動に敬意を表したい。

社会貢献活動審査委員会  
委員  
松尾 守人氏



### 福祉作業所に通う障がい児者を 招いてボウリング大会を実施

八王子・高尾・南大沢の3遊技場組合では、昨年11月24日に第24回目となる「ふれ愛ボウリング大会」を開催した。この大会は、1993年に当時の八王子組合と高尾組合が地域の青少年育成支援事業の一環として、身体に障がいを持つ子どもたちを招いて始めたもので、それ以来途切れることなく続けられている。

当日、八王子市内にある5つの福祉作業所に通う障がい児者、職員など約150名が、会場のSAP日野ボウルに集合。約3時間、ボールがガターに落ちないようにバンパーレーンが施された貸し切りのボウリング場で思い切りゲームを楽しんだ。普段、なかなか経験できないことを施設の仲間とともに楽しめるとあって、参加者は自分の投球のみならず、仲間が投げる一投一投に歓声を上げていた。

この大会を開催するにあたって、第1回目から窓口になっているのが、八王子市に拠点を置いて障がい者の支援事業所を運営する社会福祉法人「八王子いちょうの会」だが、崎田京子理事長によれば、「作業所のみならず、このボウリング大会の時期を覚えていて、心待ちにしている」とのこと。この大会に長年関わっている組合関係者は、参加する子どもたちの成長に目を見張ることもあるという。なお、大会終了後には、3組合から八王子いちょうの会に寄付金10万円が贈呈されている。



障がいを持つ子どもたちを招いて開催した「ふれ愛ボウリング大会」



約150名の参加者が貸し切りのボウリング場でゲームを楽しんだ



ボウリング大会終了後に「八王子いちょうの会」に寄付金を贈呈

### 地元の社会福祉協議会への寄付を 通じて助成事業を資金的に支える

この「ふれ愛ボウリング大会」のほかにも、3組合では合間で、毎年、社会福祉法人「八王子市社会福祉協議会」へ100万円の寄付を行っている。この事業は2011年から始まったもので、3組合に加盟する38店舗（八王子20店、高尾8店、南大沢10店）から、1店舗当たり25,000円を拠出し、不足分を組合費から補充している。同協議会が受け取る寄付としては大口で、継続して寄付していることもあり、八王子市や同協議会から高い評価を得ている。

寄付金の半分は社会福祉協議会の活動資金に充てられるが、同協議会では残りの半分を使い、公募のうえで、八王子市内で安心して住み続けることができる地域づくりを進める団体への助成を行っている。昨年12月8日に行われた寄贈式には、前年度に助成を受けた2団体（学習意欲がありながら、家庭の経済的な理由で学習塾に通うことのできない生徒を支援するため無料の学習塾を運営）の代表者も出席し、1年間の活動の報告があった。

2018年度の同協議会の助成事業としては、引きこもりや発達障がいの家族を持つ人々の支援を中心に活動している、「ひきこもり家族会『ぶなの会』」と「NPO法人かたつむり」の2団体に贈られることが決定したという。

この他にも3組合では、八王子消防署が実施している「はたらく消防の写生会」向けに、毎年、鉛筆2,000本を小学校などに寄贈している。

八王子遊技場組合の宮本勲組合長は、「地元で商売をさせていただいている以上、少しでも地元還元するのは当たり前のこと。遊技業を取り巻く状況は厳しいものがありますが、業界全体としてあきらめずにこうした活動を継続していくことで社会的認知も高まる。皆さんに愛される業界になっていくために必要な活動だと思います」と、社会貢献活動、地域貢献活動の重要性について話した。